

## 『風は南から』

令和5年度 校長室便り  
(3月21日)(第25号)



## 受け継がれていく伝統

3月は別れの季節です。お世話になった方々が新天地に赴くために、沖永良部島を離れます。先日の「合格体験を語る会」では、合格した卒業生が後輩達のために来校し、失敗体験も含めて、進路選択にあたり大切なことを自分の言葉で語ってくれました。また、エイサー部の卒業公演では、躍動する演舞からお世話になった保護者や地域の方々に恩返しをしたいという卒業生の想いが伝わってきました。そういった想いを受けた1・2年生が、次の沖高の伝統を作り、今まで74年間も続いてきたことがわかります。別れは始まりでもあります。卒業生の健闘を祈りつつ、75年目になる沖高を、みんなでさらに発展させていきましょう。

## 3月19日「2年生成果報告会」



3月19日(火)5・6限目に2年生普通科「総合的な探究の時間」と商業科「課題研究」の合同で行った「えらぶ仕事図鑑」製作に係るポスターセッションを行いました。

当日は、体育館内に、取材したグループごとにブースを作り、5限目は下平川小学校と大城小学校の5・6年生、取材を受けた職業の方々、地域の方々に、そして6限目は1年生に見学していただきました。回を重ねる度に説明も上手になっていました。

## 3月16日 エイサー部卒業記念公演



3月16日(土)18時より、あしひの郷「ちな」にて、令和5年度エイサー部卒業記念公演が開催され、多くの生徒や保護者、地域の方々にご来場いただき、卒業生最後のエイサーをご堪能いただきました。

23の演目を自分たちで企画して、中には、3つの外部の団体「えらぶ百合物語」、「武勇Beat」、「ゆーはらんバンドfeat」とのコラボもあり、会場は最後まで大変盛り上がりしました。

最後に6名の卒業生から挨拶があり、キャプテンの松下夢さんは、「自分たちがここまで活動できたのは、保護者や地域の方々のおかげです。特に昨年度のかごしま総文2023が地元開催で、多くの方々に自分たちが築き上げてきたものを披露できたことが、一番の思い出です。今まで本当にありがとうございました」と謝辞を述べました。

実はエイサー部は、平成8年にアトランタオリンピックの公式イベントに参加し、平成10年には鹿児島・香港芸能文化交流事業の一環で、香港でも公演したことがある部活動です。今回の公演を鑑賞して、この歴史と伝統は、次の世代にしっかり引き継がれたことが確認できました。感謝の思いに包まれた、余韻の残るすばらしい公演になりました。

## 3月7日 志學館大学との連携締結



第一工科大学に引き続き、3月7日(木)10時より学校法人志學館学園志學館大学と包括連携協定を結びました。当日は、飯干学長、上野事務長、

浮邊学務課長に来校していただき、校長室にて締結式を行いました。協定の内容は、大学教授による高校への出前講座の実施、高校の探究活動への支援、部活動における大学の指導、大学の施設・備品の利用に関する事など6項目になります。

締結により皆さんの教育活動において、大学の先生方の専門的な立場からいろいろなご助言を受けることが可能になりました。また、来年度からNPO法人「カタリバ」とも連携し、総合的な探究の時間に全国の小規模高校とオンラインで発表会等を行う予定です。1年生で地域や社会の課題を知り、2年生では自分で課題を決めて、その解決に向けて探究活動を進めていくことになります。

## 3月14日「合格体験を語る会」



令和5年度の普通科の卒業生による「合格体験を語る会」が14日(木)5・6限目に行われ、9名の卒業生が参加してくれました。あらかじめ1・2年生から以下のような質問が出され、それぞれが丁寧に答えてくれました。

「志望校を決めたのはいつ頃だったのか」、「1・2年生の頃の学習時間はどのくらいだったのか」、「受験に向けてどのような準備が必要だったのか」、「進学する学部等をきめるに当たって留意したことは何か」等です。以下は、主な回答の内容です。

- ・推薦入試は必ず合格するわけではないため、入試が終わった後は、気持ちを切り替えて一般入試に向けて取り組むことが大切である。切り替えの速さが大事である。
- ・志望校を早く決めると、入試で何が必要かが分かるため、早くから対策が可能になる。
- ・計画を立てずに勉強すると、好きな教科ばかり取り組むことになるため、計画を立てることが大切である。
- ・定期考査や模試の1週間前から復習を始めて、テストの前日は睡眠時間を確保したほうがよい。
- ・自分の考えを言語化できていると、面接や小論文では役に立つ。また、考えを持つためには、いろいろなことを経験したほうがよい。
- ・今の模試の判定で志望校を決めてはいけない。
- ・先生方にもっと頼ったほうがよい。経験からアドバイスをもらえる。
- ・自分を見つめて何が楽しいのか、何に興味をもっているのかを分析することが志望校決定につながる。
- ・苦手教科を含めて、自分に何が必要なのかを分析して勉強したほうがよい。

・スマートフォンの使い方を考えたほうがよい。

最後に、生徒会長の今井ひなたさんから御礼の挨拶があり、進路指導部の宮脇先生からは、先輩方から聞いた内容を参考に、今から変わることが志望校に合格することにつながるとアドバイスがありました。

